



北海道文教大学地域創造研究センター長
釧路市顧問 元釧路公立大学学長

小磯 修二 KOISO SHUJI

鶴

雅グループの歩みは、阿寒湖温泉地域から、観光によって地方の活性化を目指す先駆けとなる創造的な地域づくりへの挑戦の道のりです。

私と大西雅之社長との出会いは、私が1999年に釧路公立大学に新たに設立された地域経済研究センターに赴任した時でした。旧知の原重二氏の紹介で、一緒に阿寒湖温泉地の観光まちづくりの取組みに参加しました。私は地域経済学の立場から地域の開発、発展に向けた政策研究活動を始めており、観光産業がこれからの地域発展に果たす可能性の大き

さに着目し、その方策を探っている時期でした。鶴雅グループの経営哲学は、魅力ある地域づくりとの合体で旅館経営を目指していくもので、私はそこに強い関心がありました。地域が観光政策を展開していく上での難しさは、観光インフラの多くを民間が担うことにあります。鶴雅グループの挑戦を見つめながら、私は地域政策の立場から民との連携による革新的な観光政策のあり方を学んできたともいえます。

阿寒湖温泉地域では観光地を支える経済団体がバラバラではいけないと、すでに20年前

に経済団体を統合して観光NPOを立ち上げましたが、それは、観光庁がその後進めていくDMOの先駆モデルとなります。また、地域づくりに向け

ては独自の観光財源が必要だということ。2002年には地元から入湯税のかさ上げによる観光財源制度の提案を行い、釧路市との合併を経て2015年に実現しました。

今では宿泊税等の観光財源は普及してきていますが、その当時は観光者から税を取ることへの抵抗は大変大きく、導入前には阿寒湖温泉を訪問した観光客に対していいねい調査を行

い、魅力ある観光地形成に使われるのであれば、払ってもよいという声を確認して政策を実現しました。

鶴雅グループの歴史は、地方からの観光発展に向けた創造的革新に向けた挑戦の歴史でもあります。このチャレンジ精神によって、これからは世界に向けても羽ばたいてほしいと願っています。